

2021 年年賀式校長あいさつ (2021. 1. 8)

各教室にいる武蔵生諸君。明けましておめでとうございます。昨日、二度目の緊急事態宣言が発令される中で 2021 年が始まりました。

ちょうど9か月前の4月8日、一回目の緊急事態宣言が発令され、出口の見えない大海原に乗り出したことをよく覚えています。

あれから9か月。いったんは下火になるかに見えた新型コロナウイルスも、日本だけでなく世界中で第二波・第三波と猛威をふるっています。ウイルスの変異が進み、その感染力の強さから若年層にも拡大。イギリスなどではロックダウンがされています。一方でワクチンの開発・接種もアメリカ・イギリス・ロシアなどの大国を中心に進んでいますが、果たしてそれがどれだけ有効であり続けるのか、副作用は大丈夫なのかなどもまだまだ課題です。これから9か月。2021年9月1日はどうなっているのでしょうか。東京オリンピック・パラリンピックは果たして行なわれているのでしょうか。誰も答えは知りません。しかし時間は必ず過ぎていきます。

さて、ここで私は皆さんに報告しなければなりません。この放送は実はライブではありません。昨日自宅で録音したものです。というのも、私事ですが、私の家人が新型コロナウイルスに感染しました。このため、私自身も濃厚接触者として自宅待機になりました。現在のところ、私自身は発熱もなく、大きな自覚症状はなく、PCR検査の結果を待っているところですが、家庭内感染です。陽性の可能性は高いと考えています。もちろん校長として、感染しないようにと人一倍神経を使ってきましたし、世間で問題になっているような会食をやったり出歩いたりしたわけではありません。家の者も感染予防には十分注意していましたので、やむをえないなという思いも正直にあります。感染予防を訴えている中、多くの皆さんに迷惑をおかけすることを申し分けなく思うとともに、これまで感染した経験のある皆さんの気持ちや辛さ・大変さがよくわかります。PCR検査の結果がどうであれ、当分の間、学校には来られないということになりますが、私は何よりも高齢者リスクを抱えていますので、しっかり養生させていただきたいと思います。冬休み中ですので、幸い学校には顔を出してなかったのが何よりです。先生方にも生徒諸君にも迷惑をかけますが、どうぞ助けていただければと思います。

さて、本題に入ります。新しい2021年に際し、改めて生徒諸君に考えてもらいたいことがあります。9か月先がどうなるかも予測不可能なこのコロナ禍の先行き不透明な時代を、改めて、我々はどうやって切り開いていくか、そのためにはどんな考え方が必要かということ。皆さんはどう考えますか？

答えはありませんが、私の考えを言います。二つあります。一つはまさに武蔵の精神ですが、自ら調べ自ら考え続けることだと思います。何が起こるかわからない。正解は誰も与えてくれない。いろんな人がいろんなことを言う。だからこそ、しっかりとした情報をもって最後は自分で考え続ける。

そしてもう一つは、ピンチはチャンスと捉えることだと思います。なかなか思い通りに、理想通りにはいかないことがたくさんできます。そうであっても、ピンチを楽しむくらいの気持ちで、違った視点から何かできないかを考える。

コロナ禍では、本当に試行錯誤の連続。何が正解かはわからない。時に失敗もする。想定外のことも起きる。そんなときでも腐らずに、ピンチをチャンスに、自分の頭で考えて、最善解を探し続ける。仲間と共に探し続けることが重要だと私は思います。

その点から見て、昨年のコロナ禍であっても、武蔵生凄いなと思ったことがいくつもありました。例えば記念祭。コロナ禍においてどうするか、高3の生徒を中心に小委員会の皆さんは、考えに考え続け、考えに考え続け、中止を決断するとともに、その代替のイベントを行ない、後輩に引き継いでいきました。武蔵生立派だな、潔いなと思いました。

また、国外研修が一切出来ない中、高2の生徒を中心にオンラインでの国際交流を行いました。しかも、従来の赤城青山寮での合宿はドイツやフランスの生徒だけの交流でしたが、今回は中国や韓国の東アジアの生徒も巻きこんだ交流になりました。この取り組みを生徒たちで企画し、世界をつなげていきました。武蔵生アイデアあるな、そして愉快だなと思いました。

コロナ禍は間違いなく長期戦になるでしょう。武蔵が創立された1922年の4年前、1918年から1920年まで感染したスペイン風邪は、日本においても38万5千人の死者を出し、収束までに3年半かかりました。このことはあまり日本史の教科書にも大きく出ていませんが、当時1922年の関東大震災での死者・行方不明者が14万人ですし、現在の新型コロナウイルスも、残念ながら亡くなられた死者数は約3900人ですから、スペイン風邪の影響の大きさがわかります。

先日、当時の内務省衛生局がまとめた、当時の記録である「流行性感冒」という報告書を読みましたが、これがめちゃくちゃ面白い。マスクの着用や密集を避ける、うがい・手洗いを徹底するなど対策は今と大して変わりません。そして当時の人々も、当時の科学常識の中で、ワクチン開発をはじめ、悪戦苦闘した様子がわかります。昔の人たちも頑張っ

ていたんだなと私は思いました。それでも人々に免疫が広がるまで三年半かかりました。

今は当時とはくらべようもないぐらい科学的知見や医療技術は進歩しています。でも私は人間や社会の在り方は実はそんなに変わっていないのかなとも思います。まだまだ新型コロナウイルスがどうなるかわかりません。長期戦になるでしょう。このコロナ禍をどう生きるか、先行き不透明な時代をどう生きるのか。まずは2021年をどうしていくのか。武蔵生諸君には改めて考えてほしいと思います。

最後に、当面の過ごし方について。このあと教頭先生及び組主任の先生方から説明があると思いますが、改めて武蔵の新しい生活スタイルなどを再徹底してほしいと思います。これまでの経験知を生かしながら、行きつ戻りつしながら、段階的に武蔵の教育を取り戻し、将来的にはこのコロナ禍での成果を生かしつつ、新しい武蔵の強みを創っていただくと願っています。今の局面は少し戻らなければならないでしょう。ただ、9か月前に比べて私たちは経験知をもっています。正しく恐れることが大事だと思います。

それから、高校3年生。本当に君たちは大変な時代の入試に臨んでいると思います。よく頑張ってきました。どうぞ体調管理には十分気を付けて、持てる力を存分に発揮して欲しいと思います。経験的には、家庭内感染も注意することが必要なと思います。この期間は、家の中でも、必要に応じてマスクを着用したり、家族内でのディスタンスをとることも大事かもしれません。自分の経験を踏まえ、アドバイスをします。

それでは、新たに始まる2021年、どうなるかわからない難しい時代ですが、仲間とともに最善解をさがしていきましょう。以上で私の年賀式でのあいさつを終わります。